



43 チュニジア バルバラ灌漑事業

農産物の生産拡大・農家の生計向上への貢献が
期待されるも事業効果の発現が遅延

承諾額／実行額	19億1,300万円／15億1,800万円
借入契約調印	1998年3月
借入契約条件	金利2.7%、返済25年(うち据置7年) (コンサルティングサービス部分は金利0.75%、返済40年(うち据置10年))、 部分アンタイド
貸付完了	2004年10月
実施機関名	農業水資源省



本事業の目的

チュニジア北部に位置するジャンドゥーバ県バルバラにあるフェルナナおよびハマン・ブルギバにおいて、1,863haの農地を灌漑することにより、農業の生産性向上および生産増大をはかり、農民の生計・生活水準の向上に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) 評価C

本事業により貯水池・調整池・ポンプ場の建設、送水管・水路の整備等が実施された。灌漑受益面積は、当初計画1,863haに対し、2006年実績は1,874haと計画を達成している。灌漑受益農家数は当初計画539農家に対し、2006年実績は555農家となったが、実際の灌漑の利用は進んでいない。その要因としては、多くの農家は末端灌漑設備導入のために融資を受けなくてはならず、当面は少数の先駆的農家による取組みの様子見をしていること、農民が灌漑農業の技術や作物ごとの作付知識を十分に有していないことなどが挙げられる。また新規開田の灌漑事業の場合、効果発現に時間を要することもあり、作付面積の実績は191haと計画値を大幅に下回っている。よって、本事業の効果発現は計画と比して限定的であり、有効性は低い。しかしながら本事業対象地域において、作付指導を含むJBICの取組みが開始されており、今後農家の灌漑に対する姿勢が改善され、灌漑利用が進むことが期待される。



フェルナナの
ジャガイモ栽培



ハマン・ブルギバの
タバコ栽培

本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) 評価a

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性はきわめて高い。

事業実施の経済性(効率性) 評価b

本事業は、事業費については計画を下回ったものの(計画比62%)、期間が計画を大幅に上回ったため(計画比170%)、効率性についての評価は中程度と判断される。

今後の展望(持続性) 評価b

ジャンドゥーバ県地方農業開発事務所から農業組合への作付指導および灌漑設備の維持管理指導が十分に行われていないという問題があるものの、JBICは同事務所において技術支援を開始しており、今後技術面での持続性は高まっていくことが期待される。よって持続性は概ね問題ないと評価される。

結論と教訓・提言

以上により、本事業の評価は低いといえる。教訓としては、インフラの整備と同時に、灌漑にかかわる啓蒙活動の実施および実践を促すための技術的・財務的支援の実施が検討されるべきであったことが挙げられる。提言としては、北部地域導水・灌漑事業(P.108)にて実施されているようなチュニジア政府による自主的取組み(種子および灌漑水の無償提供、灌漑設備導入にかかわる補助金の提供等)が本事業対象地域においても実施されることが望まれる。

開発途上国専門家の意見

本事業は北部地域の農産物の生産増大により農民の生計・生活水準の向上をはかるといった観点から重要性が高い。本事業の持続性を強化するプログラムが2008年以降に計画されている。

専門家の氏名：Mr. Tahar Sioud (元政治家)
パリで法学専攻。政治学修士。駐オランダ、デンマーク、UAE大使およびチュニジアEU代表を歴任。元外務大臣。現在は、チュニジアアラブ国際銀行総裁。専門は法律、金融、外交。